



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2002年8月
第9号

ユーザーの厳しい要求に答えてこそ...

危機管理システム研究学会副会長

上野 治男 (松下電器産業(株) 常務取締役)

この度の年次大会で、副会長に選任されました。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、私は、民間企業において、リスク管理を担当しており、企業経営をめぐって日々発生するリスクの処理に追われています。最近の企業をめぐると社会・経済情勢の変化は激しく、すべてがリスクといってもよい状態です。どの企業でも、リスク管理は重要な課題となっており、何とかしてこれを適切に処理したいと腐心するものの、よい知恵もなく、ただうろろするばかりです。こんなことでARIMASSのメンバーに加えていただいているのは、ここで多くの専門家とお会いし、いろいろなお知恵も借りられ、ご指導を受けることができるからです。会員の中には、専門書をたくさん書かれている方もおられ、その人たちと直接率直な意見交換をさせてもらえることを大変ありがたく思っております。しかし、実務をやっておりますと、それらの専門書に書かれた通りにうまくはいきません。あとから考えてみれば、なるほど、それがリスクだったかとわかって遅すぎます。実務の中で必要なのは事前にそれを感じ、事業のコストパフォーマンスの中で処理することです。懸念があるからといって、すべてにコストをかけていたら、経営にはなりません。むだなところに一銭たりとも金を使うことはできません。常に費用対効果を考えねばなりません。このようなことで、これから企業現場からもっともっと注文を出し、ご指導を受けねばならないと思っております。

私たちが仕事をしていると、よくお客様に教えられ、育てられることがあります。企業人としては、少しでもよい商品とサービスを提供し、適正な価格で売ることが心にかけているつもりでも、必ずしもそれがお客様に受け入れられるとは限りません。しかし、お客様と接し、その厳しい要求に真摯にこたえていく努力を重ねていく中で、さらによりよい商品が生まれ、企業として成長し、よい企業になっていきます。リスクマネジメントは、学問のための学問ではありません。実践のための科学です。現場で困り果て、知恵もつきかねている人たちのために、知恵を提供してくれる。それがリスク管理学だろうと思えます。したがって、私たちは、企業の現場から、今、何が求められているかを率直に述べ、また、学者の成果についてどこに問題があり、また、どの理論をありがたく思い、感謝し評価しているかを率直に述べていく。すなわち、リスク管理学のユーザーの立場から徹底して発言をくりかえす。それが学問の発展のために不可欠であり、社会に一番お役に立つ方法だという信念をもって、今後共いろいろな疑問を投げかけ発言をくりかえしていきたいと思えます。このように、ユーザーとメーカーが一体になっている。当学会が外部からこのように評価されるようになるまで、努力を重ねていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

目 次

ユーザーの厳しい要求に答えてこそ.....1	分科会報告	4
会員総会報告.....2	事務局からのお知らせ	8

危機管理システム研究学会 2002 年度会員総会報告

2002 年 5 月 25 日(土) 桜美林大学・徳望館 3421 教室に於いて、危機管理システム研究学会第 2 回 会員総会が開かれました。総会出席者数 49 名。

議 案
(1) 2001 年度活動報告に関する件
(2) 2001 年度収支決算報告に関する件
(3) 監査報告
(4) 2002 年度活動計画(案)に関する件
(5) 2002 年度予算書(案)に関する件
(6) 第 3 回年次大会に関する件
(7) 役員を選出の承認に関する件
(8) 理事会における入会承認の方法に関する件

総会は、徳谷昌勇会長が議長となり左記 8 議案が審議され、全議案とも全会一致で原案通り承認・可決されました。議案(1)(2)(4)(5)については、徳谷会長より説明があり、承認されました。議案(3)の監査報告では、齋藤淳監事から 2001 年度収支決算の監査報告がなされ、承認されました。議案(6)について、次回の第 3 回年次大会は、2003 年 5 月 24 日(土)、横浜市立大学で開催と決まり、開催校の佐々木一郎教授(当学会理事)より歓迎の挨拶がありました。議案(7)については、会則第 14 条「理事並びに監事は、正会員および賛助会員の中から総会において、選出する」の規定にしたがい、土肥孝治氏(土肥法律事務所)、長濱昭夫氏(桜美林大学教授)、河路武志氏(成蹊大学助教授)の 3 名が選出・承認されました。なお、長濱、河路両新理事は、現状通り幹事を兼任します。また、他の役員異動に関して、新副会長に上野治男氏(松下電器産業(株))、新常任理事に村上處直氏(防災都市計画研究所)が選出、山本正隆副会長が理事に就任との理事会報告が会長よりあり、承認されました。議案(8)については、会則第 9 条「会員として入会を希望するものは、…理事会の承認を受けるものとする」の運用として、「まず常任理事会で審議し、その結果を理事会書面審査とする」ことにより、入会承認のスピード化を図るとの理事会決定事項が報告され承認されました。また最後に、後藤和廣、指田朝久、鈴木敏正、島田公一各分科会主査、辻純一郎広報・編集委員長より 2002 年度の活動計画について、より詳細な報告がありました。

て、選出する」の規定にしたがい、土肥孝治氏(土肥法律事務所)、長濱昭夫氏(桜美林大学教授)、河路武志氏(成蹊大学助教授)の 3 名が選出・承認されました。なお、長濱、河路両新理事は、現状通り幹事を兼任します。また、他の役員異動に関して、新副会長に上野治男氏(松下電器産業(株))、新常任理事に村上處直氏(防災都市計画研究所)が選出、山本正隆副会長が理事に就任との理事会報告が会長よりあり、承認されました。議案(8)については、会則第 9 条「会員として入会を希望するものは、…理事会の承認を受けるものとする」の運用として、「まず常任理事会で審議し、その結果を理事会書面審査とする」ことにより、入会承認のスピード化を図るとの理事会決定事項が報告され承認されました。また最後に、後藤和廣、指田朝久、鈴木敏正、島田公一各分科会主査、辻純一郎広報・編集委員長より 2002 年度の活動計画について、より詳細な報告がありました。

2001 年度収支決算書

自 2001 年 4 月 1 日 至 2002 年 3 月 31 日

(単位:円)

	予算	決算	差異		予算	決算	差異
前期繰越金	823,662	823,662	0	大 会 費	150,000	150,000	0
会 費 収 入	1,755,000	(1)1,423,000	332,000	分 科 会 研 究 費	150,000	0	150,000
(個人会費)	855,000	723,000	132,000	年 報 費	230,000	215,250	14,750
(賛助会費)	900,000	700,000	200,000	会 報 費	200,000	187,990	12,010
雑 収 入	500	(2) 45,850	45,350	名 簿 費	60,000	48,037	11,963
				会 議 費	60,000	0	60,000
				通 信 費	70,000	33,940	36,060
				事 務 消 耗 品 費	80,000	63,697	16,303
				旅 費 交 通 費	150,000	0	150,000
				諸 手 数 料	400,000	(3) 410,600	10,600
				パ ソ ク ン 関 係 費	40,000	0	40,000
				イ ン タ ー ネット 関 係 費	100,000	27,825	72,175
				雑 費	30,000	3,380	26,620
				予 備 費	230,000	0	230,000
				次 期 繰 越 金	629,162	1,151,793	522,631
合 計	2,579,162	2,292,512	286,650	合 計	2,579,162	2,292,512	286,650

(1) 2000 年度個人会費 @6,000×1 名=6,000

2001 年度個人会費 @6,000×115 名=690,000

学生会員 @3,000× 5 名= 15,000

賛助会費 @50,000×14 口 = 700,000

2002/2003 年度会費前納 1 名 = 12,000

(個人会費納入率 89.5%:120/134)

(2) 雑収入: 研究年報売上及び会員よりの寄付金

(3) 事務作業費および振込み手数料他

普通預金残高 1,080,948

現金残高 70,845

1,151,793

2002 年度予算書

自 2002 年 4 月 1 日

至 2003年3月31日

(単位:円)

収 入			支 出		
	予 算	前年度予算比		予 算	前年度予算比
前期繰越金	1,151,793	328,131	大 会 費	150,000	0
会 費 収 入	(1)1,515,000	240,000	分 科 会 研 究 費	150,000	0
(個人会費)	765,000	90,000	年 報 費	(3) 250,000	20,000
(賛助会費)	750,000	150,000	会 報 費	(4) 250,000	50,000
雑 収 入	(2) 100,500	100,000	名 簿 費	(5) 60,000	0
			会 議 費	60,000	0
			通 信 費	70,000	0
			事 務 消 耗 品 費	80,000	0
			旅 費 交 通 費	100,000	50,000
			諸 手 数 料	(6) 600,000	200,000
			パ ソ ク ン 関 係 費	0	40,000
			イ ン タ ー ネット 関 係 費	60,000	40,000
			雑 費	30,000	0
			予 備 費	230,000	0
			次 期 繰 越 金	677,293	41,131
合 計	2,767,293	188,131	合 計	2,767,293	188,131

- (1) 個人会員 @6,000X 150 名 X0.85=765,000
 賛助会費 @50,000×15 口=750,000
 (2) 会員寄付(10万含む)
 (3) 年報費:FD 入力作業及び印刷・製本+郵送料

- (4) 会報費:4 回発行+郵送料
 (5) 名簿印刷費+郵送料
 (6) 事務作業費及び他諸手数料代

【監査報告】 領収書・預金通帳・残高との照合のうえ、2001 年度の収支決算書は、会計帳簿などの記録と一致し、危機管理システム研究学会の収支状況を正しく示しているものと認めました。

2002 年 4 月 10 日 監事 齋藤 淳・小島 義輝

分 科 会 報 告 (定 例)

【危機管理教育実践分科会】

主査：常任理事 後藤 和廣 (MSK 基礎研究所)

2002 年度活動計画

1. 大学等のリスクマネジメント教育の支援

現在、当学会は横浜市立大学の国際文化学部の総合講義に派遣しています。また昨年度は、カリキュラム編成の相談等もありました。リスクマネジメントへの関心は高まっており、今後も相談、講師依頼等が寄せられると思われまます。こうした相談等に前向きに対応しリスクマネジメント教育の普及に努めます。

2. 各種講演会の協力、支援

リスクマネジメントへの関心の高まりは、一般社会にも及んでおり、各種講演会、セミナー、シンポジウム等でもリスクマネジメントをとりあげる事例が増加しています。こうした講演会等への支援を行います。会員が独自に開くセミナー等にも支援しますのでご連絡ください。

3. 標準教育カリキュラムの検討継続

リスクマネジメント教育の標準カリキュラム(案)はすでに完成しています。しかし関心の高まりは、

リスクマネジメントの対象領域を拡大し、経営学、企業財務等の隣接分野一般社会にも及んでおります。標準カリキュラムもこうした新しい流れに調整し続ける必要があります。このため、教育実践分科会では引き続きカリキュラムの検討を行います。

4.分科会活動の活性化

リスクマネジメントに関する本などを分科会会員で読み意見交換するなど、活動の活性化を行なう予定です。

【RMS（リスクマネジメントシステム）研究分科会】

主査：常任理事 指田 朝久（東京海上リスクコンサルティング）

<第13回研究会報告>

- 1.開催日時、場所：2002年4月24日水曜日、18時30分から21時まで、日新火災本店
- 2.出席者（11名）：樋口、松本、小澤、藪、吉川、山口、横井、小島、竹中、指田、事務局永倉（順不同）

今回の規格の検討ではリスクマネジメントの実施（Do）について議論しました。日常時、緊急時、復旧時の3つについてそれぞれ責任をもってあたる部門が、組織か、各部門か、リスクマネジメントシステム担当かなどの確認や、実施手順や対応手順の言葉の使い分けに意味があるのかなど議論をしました。また緊急時に特徴的な追加事項の緊急時実行組織の各機能についても銀行の経営統合の事例などにつき広報機能の重要性などが議論されました。

<14回研究会報告>

- 1.開催日時、場所：2002年6月6日（水）18時30分から20時30分まで、日新火災本店
- 2.出席者（15名）：樋口、長井、松本、横井、小澤、山口、藪、竹中、小島、五島、中山、北沢、福田、指田、事務局永倉（順不同）

今回は運用管理を終了し、いよいよJISQ2001の一番難解といわれる原則4リスクマネジメントパフォーマンス評価およびリスクマネジメントシステムの有効性評価に入りました。リスクマネジメントを行うために様々な実施項目を計画し、その実施状況をきちんと評価する事が基本であることについては合意ができました。ISO9000やISO14000と異なり実施事項を100%実施してもその結果が直接結びつかないところが存在するため難しい印象を与えたとの認識に至りました。熱い議論がかわされましたがその続きはワールドカップの初戦日本がベルギーと引き分けた興奮の余韻と合わせ二次会へと引き継がれました。

オピニオン

いよいよ、JISQ2001の解釈として「3.5 リスクマネジメントの実施」の考察に入った。ここからの議論には、様々な企業・組織における具体的な取組み事例が多いに参考になる。「理屈は分かるが難しい」「総論は賛成だが各論では難しい」などといった、実施に向けての苦しみを少しでも和らげる為に知恵を出し合えたらと思う。

実践して、効果を検証し、継続的改善につなげる部分の知識・経験、いわゆるノウハウが、リスクマネジメント普及の鍵を握ると思われるので、これからもさらなる探究を続けたい。

日新火災海上保険(株)リスクマネジメント部 横井 靖

【リスク情報交流分科会】

主査：常任理事 鈴木 敏正（日本総合研究所）

2002年度活動計画

1.分科会の目的

- ・リスク社会の中で、on time で、リスクに対する警鐘を発したり、リスク低減（主に、被害の低減でしようか）の方策を社会に提示したい、というものです。
- ・リスク変化から、社会を見つめる、つまり、別の視点の社会学・・・言うなれば、“リスク社会学”なるものの可能性は、ないだろうか？などを、考えようとするものです。
- ・従来の学会活動のスタイルに捕らわれる事無く、社会に直接発信する（それは、例えば、銀行を中心とする間接金融の時代をつき抜けて、自らの責任で行う直接金融の時代に生きようとするに、似ています）主体になれないだろうか？という、実験でもあります。

2.具体的活動のイメージ

- ・社会的に焦点が当てられたり、これから注視すべきリスクを、オンタイムで抽出し、それについて、誰が、何をすべきか、それが、被害軽減にどう繋がっていくのか、また、社会はどう対応すべきなのかをネット上で意見交換をし、何らかの形で社会へ発信していく。
- ・様々な公表資料を調査し、企業が意識しているコーポレートリスクを、業種別、地域別、規模別等等、様々な角度から分析して、リスク認識という視点から企業社会の様相を観察してみようとするものである。

（当面の活動予定）

- ・学会の第三分科会メーリングリストを利用した模擬議論、突発的な事態における対応等の試みを行なう。
- ・たとえば東京証券取引所で規定している“会社情報適時開示ガイドブック”などを参考にして、会社リスク情報収集フォーマットなどを作成し、分科会メンバーで分担して情報収集を行い、それをもとに分科会メンバーが集まって、分析作業のための方針を作る、などを予定している。

【リスク事例サロン分科会】

第1回 リスク事例サロン分科会開催報告

主査：常任理事 島田 公一（あいおい損害保険）

危機管理・リスクマネジメントに関する会員間の情報交流の場として、今年度より発足いたしました第4分科会「リスク事例サロン分科会」（第1回）が開催されました。本分科会は、開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。当日は台風上陸という悪天候にもかかわらず多数が参加いただき、活発に意見が交わされました。

- 1．開催日時・場所：2002年7月10日（水）午後6：30～8：30、於東洋経済新報社 9階会議室
- 2．参加者（26名）：五十嵐、北沢、五味、幸山、小島、齋藤、島田、杉島、多田、田端、田和、出崎手島、徳安、長井、中嶋、中村、能崎、萩原、樋口、廣田、松本、山口、横井、吉川、（事務局）永倉 アイヰ順
- 3．テーマ：雪印食品・協和香料事件に見る「コンプライアンス（法令遵守）と企業の危機管理」
- 4．分科会の内容：テーマに関して報告者（島田主査）から事実関係の報告・資料説明後、飲食しながら参加者による自由発言・情報交流が行われました。主な発言は次の通りです。

<法令違反と企業リスク

- ・リスクの中でも、地震でつぶれた企業はないが、法令違反でつぶれる企業はいくつもある。
- ・まず、法令は遵守すべきが当然であり、そのことを企業は十分に認識すべきである。
- ・法令違反をおかしても、企業がつぶれない場合もある。つぶれる場合は、消費者の受け止めが感情的で、不買運動につながるような場合である。主婦層が注目する業種は、問題が起きると売上げダウンに直結し、ダメージが大きい。
- ・この事件がなければ、日本社会は変わらなかった。この事件により、教訓が得られ、社会が進歩した。ルール違反に社会が厳しくなっている。

- ・法令違反を認識しても、サラリーマンである以上、会社を辞める覚悟がないと上司には抵抗できない(是正すべきと主張できない)。別の上司が庇ってくれば、可能ではないか。
- ・内部告発者を守る窓口(外部の弁護士などを)を設置しようとする動きがある。
- ・業界、企業で惰性になっている事を、リスクとしてあらためて認識する事は難しい。
- ・不正を見つけられるかは、組織の自由度・余裕度にかかっている。ISOは社内監査を継続的にできる有効なシステムである。

<メディアと企業リスク>

- ・マスコミは突出した話題(読者が知りたがる)を徹底的に追求する傾向がある。マスコミ対策(リスクコミュニケーション)は危機管理上重要である。
- ・欧米では、メディアトレーニングができるようになってきているが、日本ではあまり行われていない。
- ・新聞は、下町の人達にもわかるような報道を心がけている。新聞記者は、業界に詳しくなり過ぎると、業界寄りになる可能性があるので、そうしない。
- ・法令遵守だけをしていれば良いというわけではなく、業界もマスコミも世間に目を向けて対応すべきである。
- ・「雪印」は、社名がブランドであり、リスクでもある。

第2回 リスク事例サロン分科会開催のご案内

危機管理・リスクマネジメントに関する会員間の情報交流の場として、今年度より発足いたしました第4分科会「リスク事例サロン分科会」を下記により開催いたします。本分科会は、開催の都度参加者を募り、飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。どなたでも参加いただけますので、お気軽にご参加ください。

- | |
|--|
| <p>1. 開催日時: 2002年9月11日(水)午後6:30~8:30</p> <p>2. 開催場所: 東洋経済新報社 9階会議室 <東京都中央区日本橋本石町1-2-1>
(地下鉄半蔵門線三越前徒歩1分、銀座線東西線日本橋徒歩3分、JR東京駅徒歩8分)</p> <p>3. テーマ: 「広報対応と企業の危機管理」
- 雪印・全農チキンフーズ・ミスタードーナツ・三菱自動車等最近の事件に見る -</p> <p>4. 報告者: 長井 健人 氏 (株式会社 日本総合研究所)</p> <p>5. 分科会の持ち方:
・テーマに関して報告者から事実関係の報告(30分以内)
・参加者による自由発言・情報交流(約1時間30分:飲食しながら)
リスクマネジメントの視点からの感想、問題提起、関連するマスコミ・文献紹介など、
どんな観点・視点からでもかまいません。</p> <p>6. 参加会費: 3000円(軽食・飲物代として、当日徴収)</p> <p>7. 参加申込み(先着順・定員25名・9月6日〆切)
電子メール(FAXでも可)により、下記事項を記入の上お申し込みください。
(1)9月11日第4分科会参加希望 (2)氏名 (3)所属 (4)連絡先電話 (5)電子メールアドレス
[申込み先・問合せ先]: あいおい損害保険株式会社 商品開発部 島田 公一
電話:03-5789-7224 FAX:03-5789-6680 電子メール :ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp
(当日の緊急連絡は携帯090-9145-4298へ)</p> <p>8. その他
(1) 書記のお願い:参加者の中から1~2名書記をお願いいたしますので、よろしくご協力ください。
(2) 電子メールによる参加:当日参加できないかたでも、電子メールにより今回のテーマに関して情報提供や意見・感想を述べていただくことができます。上記[申込み先・問合せ先]に、氏名、所属、電話番号を記入の上、お寄せください。(9月6日まで)
(3) 毎回の分科会開催予定と参加申込方法:分科会開催日は、年間を通して原則奇数月の第2水曜日午後6:30~8:30、同じ開催場所を予定しています。第3回は11月13日(水)となりますが、開催日の1ヶ月前にテーマ、報</p> |
|--|

告者、申込要領等をホームページ・電子メールで詳細をご案内しますので、その時あらためてお申し込みください。

メールアドレス登録のお願い

本分科会の開催は開催の都度学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

当学会が I E A が実施する A R M (リスクマネジメント資格) の 日本向けインターネット通信教育コースの窓口

5月25日の年次大会において報告・承認されましたとおり、当学会は、アメリカの保険およびリスクマネジメント教育の非営利団体 I E A (Insurance Educational Association) が実施するリスクマネジメント資格 A R M (Associate of Risk Management) の日本向けインターネット通信教育講座の受け付け窓口を実施する予定です。

以下その概要を説明いたします。

A R M とは

- ・ A R M は、米国の企業、保険会社、保険ブローカーなどでリスクマネジメントの専門家として最も高く評価されている資格称号です(米国最大のリスクマネージャー団体 RIMS の特別会員は A R M 資格が要件、また米国の企業はリスクマネージャーの資格に A R M を要件とするところが多い)
- ・ A R M の教科書発行と資格認定を行なっているのは I I A (Insurance Institute of America: アメリカ保険研究所) という機関です

・ A R M 資格を取得するとリスクマネジメントコースを有している米国の大学院に留学した場合 9 単位が取得単位として認められます

インターネット通信教育講座とは

- ・ コースは、A R M 5 4 (リスクマネジメントの基礎)、A R M 5 5 (リスクコントロールの基礎)、A R M 5 6 (リスクファイナンス) の 3 コースからなります
- ・ I E A で提供するコースは、すべて英語で 1 コース 2 2 週からなります
- ・ 各自教科書を読み、毎週始めにネット上に講師より問題が提示されるので、受講者は 5 日以内に解答を送信します
- ・ 講師は解答に対して、コメントと模範解答を返信します
- ・ コース半ばではコンピュータースクリーンを見ながら、講師との電話による質疑応答があります
- ・ 受験はどこで
- ・ コース毎に、試験を受けることができます。
- ・ 日本でも年 2 回東京において受験可能です
- ・ 米国では、毎年 2 月 15 日~3 月 15 日、5 月 15 日~6 月 15 日、8 月 15 日から 9 月 15 日、11 月 15 日から 12 月 15 日のほぼ 4 ヶ月間で、個人の都合に合わせて受験日を選択できます。指定されたテストセンターで受験します。
- ・ 試験は、もちろん英語ですが 4 択式です
- ・ 3 コースの試験に合格すると A R M の資格称号が与えられます

受講費は

- ・ 1 コースにつき A r i m a s s 会員 1000 ドル、非会員 1 1 0 0 ドルを予定しています
- ・ 費用に含まれる項目は受講料、教科書 2 冊及びコースガイド代金、コース半ばに行われる講師との電話を通じての質疑応答ミーティング参加費用です

初回コースの実施予定は

- ・ 11 月開講を目指して現在準備中です

申込方法は

- ・ 当学会のホームページを経由してリンク先の I E A に直接申込手続を行ないます(I E A の日本向け

サポーターとしてSGN Pacific Insurance Brokerage 野田氏がアシストします)

IEA のホームページでこの日本向け ARM コースのデモをごらんいただけます

http://online.e-education.com/iea (User Name は「Japan」を Password は「Guest」)

【編集後記】

ARIMASS 第9号をお届けします。発行が遅れ、申し訳ございません。遅れた分、新たにスタートした第一回サロン分科会の活動状況を掲載することができました。これまで分科会活動に(敷居が高い感じがして?本当はそんなことはありません)参画できなかった会員の皆さん!気楽に参画できる分科会です。

一度、お誘い合せの上、覗いてみてはいかがでしょうか。今総会は場所がやや遠かったので集まりを心配しましたが、多くの方々に参集いただき、熱のこもった討議となりました。

主催校の長濱先生には大変御世話になりました。ありがとうございました。パネルディスカッションの概要は、次号で紹介予定です。(辻 純一郎)

事務局からのお知らせ

1.事務局電話番号・FAX番号が下記に変更になりましたのでお知らせ申し上げます。

新 電話番号：045-453-0003

新 FAX 番号：045-442-0235

2.分科会連絡先

第1分科会(教育実践):主査:後藤和廣、.03-3291-8921/Fax. 03-3291-8930 e-mail:gotokaz@aol.com

第2分科会(RMS):主査:指田朝久、.03-5288-6580(代表)/6581(危機管理情報グループ)//Fax. 03-5288-6590

e-mail:TOMOHISA.SASHIDA@tokiomarine.co.jp

第3分科会(情報交流):主査:鈴木敏正、.03-3288-4255/Fax. 03-3288-4691

e-mail:suzumasa@mvp.biglobe.ne.jp

第4分科会(第4分科会:リスク事例サロン分科会)

:主査:島田公一、.03-5789-7224/Fax. 03-5789-6680

e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

3.新入会員紹介

氏名	所属機関・職名
ファイザー製薬 株式会社	賛助会員
八角 憲男	千葉県立千葉東高等学校教諭
竹本 篤郎	千葉工業大学助教授

3.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会 〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-19-403
.045-453-0003 FAX. 045-442-0235

e-mail : arimass@muh.biglobe.ne.jp
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

2002年8月10日発行

印刷 株式会社 櫻 栄 .03-3288-5571